

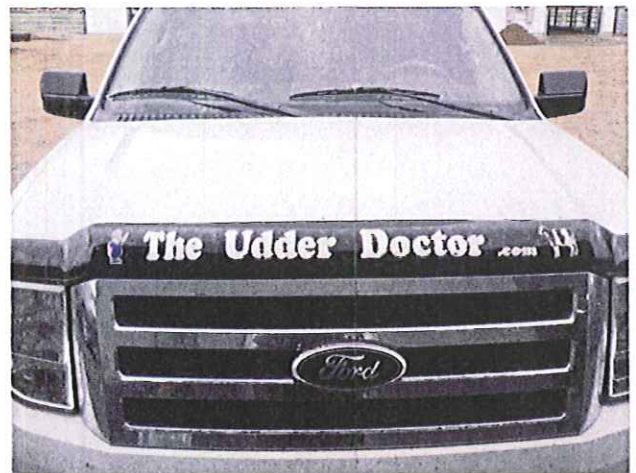
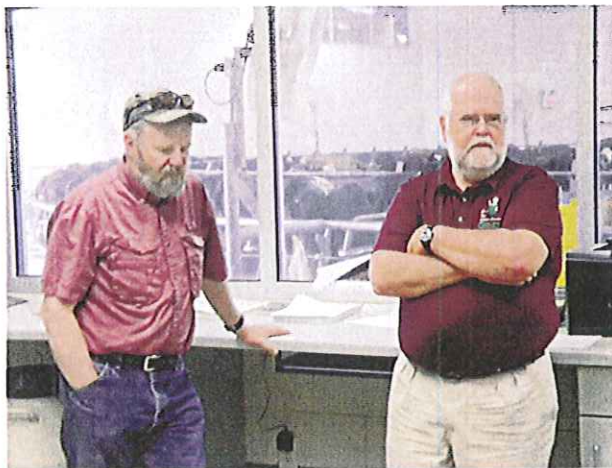
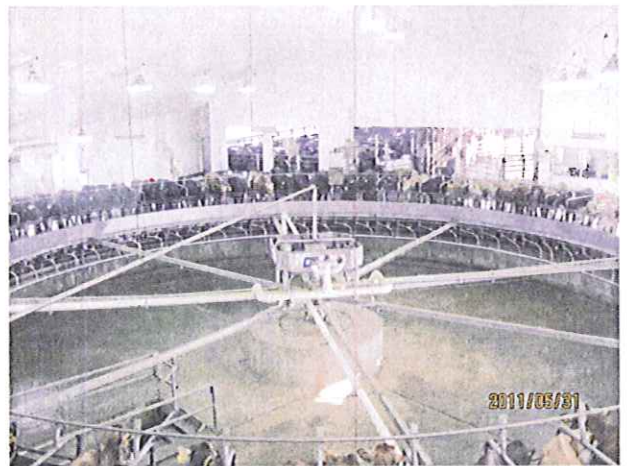
マネージメント情報

※ アメリカ・カナダ研修報告 Vol.1

< 5/31…Central Sand Dairy >

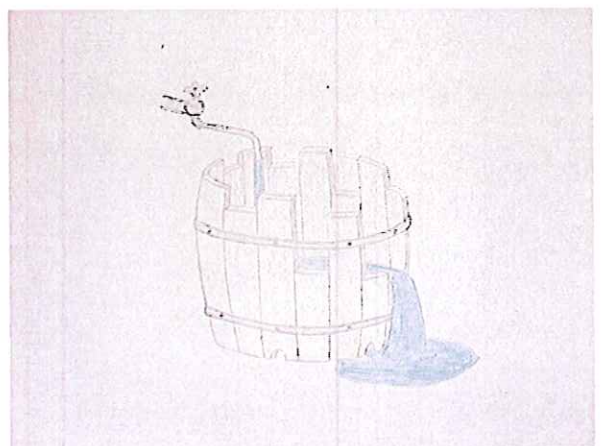
研修初日、Dr. Gordie Jones の Central Sand Dairy です。

昨年5月に中西別の中山貞幸さん上春別の山家隆志さんらが訪問しましたが、今回も偶然という事なのですが？黒崎の恩師 Dr. Andy Johnson が 72 ポイントのロータリーパーラーのミルクカー点検に来ていました。髪の毛も髭もすっかり白くなっていましたがお腹は昔のままです。2人ともに60才を超えましたが現役でばりばり仕事をしています。



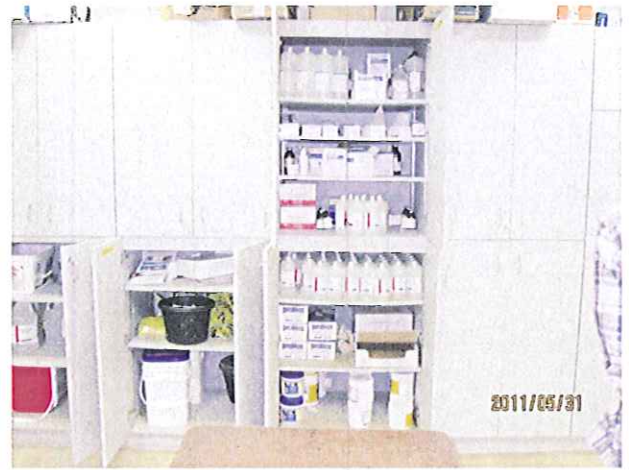
パーラーを見渡せる事務室でいろいろと農場の説明をしていただきました。

Dr. Andy Johnson の一番成績の良い農場はストールに対して 150%の牛が入っていて牛群平均 40kg の牛乳を生産しているそうです。植物の栄養学でドベネックの要素樽(右図)の話で最小養分律という考え方(植物は養分の必要量に対してもっとも供給の少ない養分に生育を制限する)があり酪農でも同じ例えで説明される事が良くあります。きっとその農場は 50%増しの牛が入っていてもそれがハイレベルな最小養分律なのでしょう。西日本にもそういう農場があると聞いています。われわれ現状を考えるとまだまだ可能性がある？ありすぎか？と痛感しました。



Dr. Gordie Jones の農場へ行くと必ず棚の戸を開けて見せられる常備薬の写真です。成牛頭数が3,800頭の農場でこれだけです。彼曰く、「やることをちゃんとやればこれで済む」!!!!!! 話す内容は今も昔も全く変わっていませんでした。

今回の Central Sand Dairy 訪問で一番勉強になった事です。酪農の基本は永遠に変わらないということでしょうね。いろいろな意味で再確認しました。



左の2枚写真は牛をまっすぐに寝せる事の重要性を説明してくれました。サイドパーテーションはある程度制限する必要があり、幅も広すぎると斜めに寝てしまいベッドを汚してしまうということです。右の写真の様にまっすぐに寝て、寝たまま糞をする時に通路に落ちるといった状況がベストです。

ちなみに上の写真は乾乳牛群です。

Dr. Gordie 曰く乾乳牛のベッドの幅は搾乳牛より広く140cm 必要と言われてはいますが、必要ない!!!と。

しかも3ロウです。

以前、乾乳期のエサで「ハイファイバーローエナジー」と紹介しましたが、今は「ハイファイノーマルエナジー」と彼は言っています。いずれにしても乾乳期に十分なセンイが重要で、選び食いができないような切断長がポイントです。

この点もさまざまな条件が関係していますが、とりあえずこの農場の乳房炎の発生率は0.5%で休薬期間の牛を入れても16-18頭、薬棚の写真のとおりで第四胃変位、蹄病も言わずもがな……です。

最後に彼が話してくれた事はちょうど11年前、H10年5月に養老牛で行った Dr. Gordie Jones セミナーで彼が話してくれた酪農のABCの話でした。

A = Air (換気)

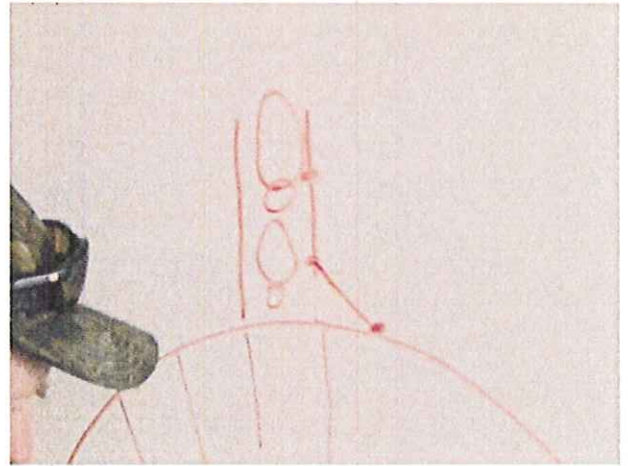
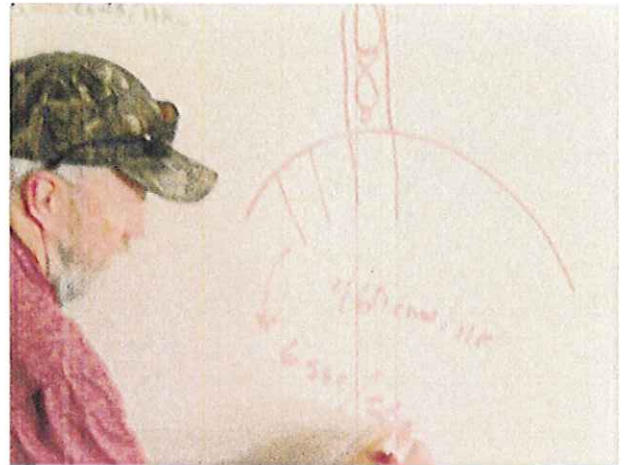
B = Bunk (スペース、飼料、乾乳飼料)

C = Comfort (安楽性)

行くたびに自分は何をやっているのかなあ〜と考えさせられます。

いつまでも同じ事をしては…と禪を引き締めて農場を後にしました。

ロータリーパーラーのちょっとした改造の話
 当初は右上の写真のように牛がパーラーの
 入り口の柵はまっすぐな形でした。
 それを下の図のように入り口を左側に振っ
 て牛が左向きに歩くようにしました。
 その結果1時間当たりの搾乳頭数が460頭
 から500頭になり10%以上効率が上がった
 そうです。
 誰が考えた？と聞くと、自分をさして笑っ
 ていました。
 まだまだそういうヒントは酪農場にはいっぱ
 いあるのでしょね。



- 5年ぶりの海外でしたがなんとか無事に戻ってきました。
 今回あらためて考えさせられたことは、やはり基本ということですね。これからの酪農環境を考えると今より良くなる要素は期待できません。
 その中でどうするか？と考えると基本どおりという事になるのでしょね。
 酪農の基本は以前にも書きましたが三愛精神→健土健民なのでしょね。その中でててくる「土—草—牛—食—人」の流れの土作りから始まる事が、時間がかかるようですが、一番の近道だと思います。そしてDr. Andy Johnsonの150%増しの農場の話、Dr. Gordie JonesのCentral Sand Dairyしかりです。
 いつまでも向こうの話で済まさない、同じように、いやそれ以上の結果を出す努力をしなければと痛感して帰ってきました。方向性が見えてきたように思います。
- さて、富岡獣医師の近況ですが1人でアメリカでの国内線の乗り継ぎもできるようになり、FresnoからLos経由で最後の研修地アイダホ州Boiseに到着し、最初の乳房炎検査(Udder Health System)の研修を無事終え、明日から本当に最後の研修先Dr. Raffael Richdiのところでお世話になるところです。最新のメールには先生の4才になるお子さんがホテルに迎えに来てくれて、夕食をご馳走になりホテルに戻ってきたとの事です。黒崎代表のところには「何とかなるものですね」と以前の彼からは聞くことがなかった言葉がメールに書かれていたとの事です。みなさん変身した富岡を期待していて下さい。私が子供の頃(プロレス全盛の頃)、ラッシャー木村がアメリカ武者修行に行っ
 て強くなって帰ってきたように…